

【第1回】平成25年2月14日

【第2回】平成25年3月29日

【第3回】平成25年5月27日

【第4回】平成25年7月23日

【第5回】平成25年8月28日

【第6回】平成25年11月22日

本資料は、策定委員会の協議を論点毎に整理したものです（類似意見はまとめて記載）。

【論点】計画全体について

ア．理念、教育ビジョン

1. 計画は、国の計画を踏襲するだけでなく、市独自の内容とすべき。計画は、個々のアクションプランを束ねるような理念、重点施策の設定が中心となる。
2. 計画は、「教育先進都市」として他にないものと、学校・地域・家庭が一体となるような理念、取り組みを盛り込みたい。
3. 親は、学力が身に付き、楽しく行ける環境を願っている。計画では、保護者と一体となって子どもをどう育てるかが理念になる。この理念を定め、それに基づいて具体的な取り組みを行うべき。
4. （市）計画では、宇治市独自の理念を確立したい。市は平成26年度に（仮称）教育研究所を設立するよう準備を進めている。
5. （市）市では「障害」という表記を使用している。
6. 生涯学習は行政サービスを市民が選択するが、学校教育は学校がサービス内容を決める。このような生涯学習と学校教育の構造原理が異なる点を考慮することも必要である。
7. （市）「生まれてから自立するまで支援する教育」を市長のマニフェストに謳っている。
8. 大河ドラマの「十の教え」や論語のようなものが宇治市にもあったら良い。幼い頃にそれを学んだ経験が健全育成につながる。

イ．重点項目、考慮すべき項目

9. 計画では、親の意識、PTA活動のあり方など、「親」に焦点を当てた取り組みも盛り込みたい。
10. これからの教育では、とりわけ、家庭や社会教育との連携が重要になる。（【論点】掲載項目）
11. 福祉と教育は深く関連している。この観点から、例えば「5歳児の就学義務付け」などについて、海外事例を参考に議論することも考えられる。（【論点】掲載項目）
12. 小中一貫教育という方向性は今後の学校教育では重要になる。様々な課題もあるが、それらを解決しながら充実を図っていくべき。（【論点】掲載項目）
13. 教育領域だけではなく、福祉領域（ソーシャルワーカーや保育士など）との連携も必要になってくる。
14. いじめ、体罰などを計画に位置づける必要がある。
15. 学校教育、青少年、生涯学習の3プランを如何に融合させるかが課題となる。

16. 学校教育の歴史は150年ほどで浅く、それまでは家庭やコミュニティが教育を担っていた。学校教育（公教育）が何をどこまで担うのか（役割等）を考える必要がある。
17. （市）昨今の学校教育の課題は、学校だけでは解決できないことが増えている。（教員が経験したことのない事態も多い）
18. （市）学校教育で学社連携を進めていく必要がある。学力定着も学校だけでは限界がある。
19. （市）分散進学や適正規模の問題は児童数だけ（学校教育の観点だけ）では決められない。地域との関係なども含め、まちづくりに大きく関係する。相当の時間が必要である。

ウ．計画策定の進め方

20. 計画策定は、解決すべき課題を議論する中から理念を考えていきたい。理念にこだわり過ぎると議論が進まない場合がある。
21. 現行の課題を具体的にしていけないと、教育ビジョンにつながらない。
22. 何が不足なのかをアンケート等で明らかにした上で、具体的な課題について議論していくことが大事である。（この点で資料作成等にも配慮が必要）

エ．アンケート結果と教育ビジョン案の提示を受けての意見

（計画について）

23. これからの社会では、自ら学び、自ら問題を見つけ、解決に取り組む「力」の育成がポイントになる。（英国では、市民としてどう生きるか（市民力）を学ぶカリキュラムがある。）
24. アンケートを見ると学校には「知」「徳」「体」を期待していると言える。ビジョン案には「心（徳）」だけでなく、「知」と「体」の表現、宇治市らしさを表現すると良い。
25. 時間がかかるが、しっかりとした大人を育てるために子どもをどう育てるか＝人間像＝が大切になる。
26. 各校にそれぞれの「子ども像」があり、計画の「人間像」との整合を図れるか懸念される。
27. 主体は市民と子どもであり、それを行政がサポートするという計画であるため、「人材育成」という表現より、例えば「こういう力を備えた若者を育てる」の方が相応しいと思う。
28. 幼稚園では「つながる」ということを大事にし、就園児だけでなく地域の中の幼稚園になりたい。『まあいい笑顔、まあいい言葉、まあいい心』が幼稚園の目標。
29. 宇治という地域性、8年という期間をどう反映するのかを整理すること。ビジョンは普遍的なもの、推進プランに8年という期間が反映されることを期待する。
30. 見通しのききやすい人口規模という宇治市の特性を活かす内容にすること。
31. 学習拠点や人材などの「学校の総合力」の活用方策を検討すること。学校教育と生涯学習の壁を低くすることを検討する。（教室で生涯学習の水墨画教室を開き、参加者が定期的に子ども達に教えるなどの例がある。）
32. 計画は達成度を把握できるようにする。
33. 計画には「安心・安全」を盛り込んで欲しい。（目標で示す必要はないが）
34. 青少年健全育成においては、家庭教育をしっかりすること、地域ぐるみで健全育成に取り組むことが大切である。
35. 目標2の文言で「子育てと青少年健全育成における最大の脅威となる“周囲の無関心”を払

拭し」には違和感がある。

（家庭、地域について）

36. 役割分担について一概に家庭か学校かとは言えない。どちらも大事になる。
37. アンケートではPTAへの積極的な参加意欲が低く、実際、PTAに消極的な人はいるが、PTAは保護者を成長させてくれる場であると考えている。
38. 子どもが挨拶や社会マナーを身に付けるには、家庭で親子の関わりをしっかりとっていくことが重要になる。
39. 地域での子ども同士のけんかまで学校で指導してほしいという依頼がある。学校としては、家庭での役割、地域の力をもっと借りたいと考えている。
40. 昔とは違い、現代の親には様々な考えがある。（水泳の事例。）
41. すべての教育は家庭から出発する。10年くらい前から家庭、学校に地域が加わったが、地域の力は弱いと感じる。
42. 家庭・地域のほかに、スポーツ少年団も役割の一端を担っている。

オ．第2章教育ビジョン（案）の提示を受けての意見

理念

（内容）

43. 公教育に宇治市の地域特性（良さ、強み）はどう反映するか（教育環境として）、それが「お茶、王朝文化」なのかを検討する必要がある。
44. 「お茶」は裾野が広い文化を持っており、産学連携などへの広がりもある。
45. 「お茶、王朝文化」は宇治市にとって大きな財産であり、全国的にも有名。
46. 「お茶」をテーマに様々な活動している。（「茶まつり」を59年ぶりに宇治で11月開催。Tea1グランプリ、子ども版お茶検定を実施。）宇治に果たす「お茶」の役割は大きい。
47. 流動性が高い人口構造であれば、宇治で育つ子どもが世界に羽ばたくことも方向性になる。原案は将来的に宇治に住むことの想定が強く感じる。
48. （市）人口は微増で流動性はそれほど高く、少子高齢化が進んでいる。こうした動きの中では「宇治学」の理念（宇治のために学ぶ）を、引き続き、教育の中心に据えたい。もちろん、世界に羽ばたくことも期待したい。
49. 理念では、宇治市の構造的な現状（特性、課題。細かいものではなく）と、宇治の地域特性を活かして教育で子ども良さをどう伸ばすかを明確にしたい。
50. 原案の「自然や歴史遺産、伝統文化を守り育てる教育を進める」という理念では内容が狭まっていると感じる。歴史文化などを教育環境、教育の土壌として、どういう人間を育てるかを示したい。
51. 宇治市はPC設置、小中一貫などで教育先進都市である。さらに、先進するために何かをするか。また、世界に羽ばたく子どもを育てる学校を地域で支えて欲しいと思う。
52. （市）第5次総合計画に基づく本計画の位置付けを明確するために「2段落目」は掲載したい。

（キャッチコピー）

53. 人を「つくる」という言葉にどうも引っかかる。
54. 「子ども」「ふるさと宇治」は入った方が良い。
55. まち、歴史をつくるから。曖昧（抽象的に）にならないよう。
56. 「ともにつくろう 明日の宇治の子・ひと・まち」を提案する。

（人間像）

57. 人を「つくる」という言葉は不適切。

目標

（目標 1 について）

58. 「学校が持つすべての力」は馴染みのない言葉であり、学校が出し惜しみをしている訳ではない。見た人が誤解しない表現が望ましい。
59. 学校内部のリソース（資源）だけでなく、「学校の持つ地域の核となる力」だと思ふ。
60. （市）児童だけが対象ではなく、地域への情報発信も学校の力のひとつ。
61. 学校とは「小・中学校」「幼・小・中学校」「保幼・小・中学校」なのかが混在している。
62. （市）学校は義務教育（小・中学校）のことだが、学校教育の役割はもっと広いと考えている。
63. 目標 1 と他の目標との表現上の整合を考えると、前後の文節を入れ換えるとよい。（「学校が持つすべての力」を發揮し、「横の連携と縦の接続」を進化させる」「目標 1 「横の連携と縦の接続」を進化させ、「学校が持つすべての力」の充実を目指す」など）

（目標全体について）

64. すべての目標に「横の連携と縦の接続」は盛り込まれていると思う。原案ではそれが十分に伝わらないので、そうした内容を加えるとよい。
65. 1 つの連携施策は連携する主体ごとに成果はある。その表現は難しい。例えば、「横の連携と縦の接続」について 8 年間の重点政策を前面に出すと宇治らしさが表現されるが、重点施策には人も費用もかけることになるため、他の施策との兼ね合いも含めた政策判断が必要になる。それを考えると各施策で盛り込んでおくことも理解できる。
66. 本計画の主旨である 3 つのプランの統合になっていないのではないかと。「横の連携と縦の接続」が施策 9-11 に記載されており、目標と施策が捻じれている。
67. （市）学校は児童を教えるだけではなく、幼児期から青年期までの幅広い年代の教育においては学校が実質上の役割を担うと考える。目標 1 は学校の基本的な取り組みであり、学校のもうひとつの役割を記したのが目標 2。また、次代の教育への還元を目的とした施策が目標 3 としている。
68. 「こうした」の多用に違和感がある。

施策体系

69. 「施策 7 幼児・児童生徒を中心に据えた学校運営の推進」。“幼児・児童生徒を中心に据えた”は当然のこと。内容をみると、信頼される学校、開かれた学校という表現が適切と思う。
70. 「施策 11 学校教育と生涯学習のつながりの強化」は社会教育が適切か。また、内容が従来継続だけなので、タイトルと内容が一致しない。
71. 「施策 13 スポーツ文化の推進」は。スポーツ文化とは？
72. （市）スポーツは「する」ことが従来からの概念であったが、これからは「みる、支える」

もスポーツの領域として捉える。この幅広い領域を表現するため、「スポーツ文化」とした。
推進プラン

73. 施策内容は総合計画の範囲で精査していく。

カ．第2章教育ビジョン（修正案）の提示を受けての意見

74. 目標の内容（文章）の修正（用語・表現の整理、用語の訂正など）

75. 前回の審議内容をよく反映している。

76. 理念は、目指す人間像を端的に表現するもの。

77. 理念は投票で「家庭・学校・社会でささえる宇治のひとづくり・まちづくり」に決定。なお、“ひとづくり”という表現は教育現場で使用されている例も多い。

キ．第3章推進プラン（案）の提示を受けての意見

プラン全体	<p>78. 宇治市の独自性を強く打ち出して欲しい。</p> <p>79. 「重点施策」は8年間を想定している。重点施策の捉え方の明確化。</p> <p>80. 宇治茶をはじめとする伝統文化を基盤とする教育内容に関する記載がやや薄い。産業界として教育に関与する目的は、茶づくりの継承（地元での就労）と宇治茶の普及（全国、世界に対し）の2つ。（匠の館（旧 宇治茶会館）には宇治茶を包括的に紹介する機能がないので、業界としても検討していきたい）</p> <p>81. 「個性の尊重」「創造性」の教育について記載を望む。しかし、具体的な記載は難しい。</p> <p>82. 各項目の内容（文章）の修正（用語・表現の整理、用語の訂正・統一、誤解を与えかねない文章の再精査、箇条書きに徹する）</p>
施策1（学力）	<p>83. 言語活動＝コミュニケーションではなく、「非言語」もコミュニケーションでは重要になる。</p> <p>84. 「きく」ことは主体的な行為であり、重要である。</p> <p>85. 市独自施策がさらに必要であり、市の教育研究所の位置付けの明確化もできたら良い。（市の回答：教育研究所は教育分野全体に関与するため、個別には記載しない。）</p>
施策2（豊かな心）	<p>86. 施策がやや羅列的である。</p> <p>87. ボランティア学習（教育）という考え方を反映すると、学校教育における位置付けが明確になる。</p> <p>88. 情報教育は子どもたちの規範意識に大きく影響する（現状は危機的な状況といえる）。しかし、学校の情報教育は遅れているので、その充実が必要。</p>
施策3（健やかな身体）	<p>89. 学校では防災訓練も含め、防災教育を推進している。</p>
施策4（特別支援教育）	<p>90. 「支援員」「専門的な職員」をわかりやすく。（市の回答：現行の</p>

	スクールカウンセラーのほか、PT や OP も視野に入れた表現)
施策 5 (就学前教育)	91. 幼稚園の入園者が漸減しているので、教育機関としての公立幼稚園の良さ、家庭教育への支援、幼小連携の充実方法を具体的に記載できないか。 92. 3 年保育など保護者の保育ニーズへの対応も必要。(市の回答：子ども子育て新制度の中で検討していく。)
施策 6 (教員の指導力量)	93. 通常の生徒指導の項目がない。(市の回答：学校教育全体にかかるため、各項目には記載しない。) 94. 若手教員の研修も必要。
施策 7 (学校運営)	95. 学校運営への地域参画の方向性を示すことができれば良い。(市の回答：市として中学校ブロックと地域参画のあり方を検討する必要は認識しているため、「学校運営協議会など」と表記している。) 96. 市だけでなく、市民や地域の方からも検討が必要。
施策 8 (教育環境)	97. 通学路の安全確保も必要。
施策 9 (家庭教育力)	98. 情報教育は家庭においても重要。親自身の情報モラルへの取組も必要。 99. 提供する情報を見せる工夫も必要。
施策 10 (地域教育力)	100. 各地域で青少年活動の活性化を促す施策が必要(現行の青少年健全育成センター (3 か所) で市内全域をカバーできない)。
施策 11 (学校教育と社会教育のつながりの強化)	101. 現状の施策にとどまっている。学校教育と社会教育のつながりを強化する具体的な仕組みを盛り込む必要がある(生涯学習審議会でも検討して提言する予定)。 102. 個人や地域の意識によって活動に格差のある現状を是正する(底支えする)仕組みが必要。第三者が家庭教育に関わることが重要であり、課題に挙げられているコーディネーター確保が施策に入っていない。特に図書館分野ではボランティア依存の現状はあるものの、従来の延長線上ではない取組にはボランティアやコーディネーターを確保・育成し、学習活動を後押しする施策は必要。 103. 親自身の読書を含めた読書機会の充実が必要。 104. 小学校中心であるので、小中一貫として中学校区での取組の検討が必要。 学校の地域参画については「施策 7」に記載。
施策 13 (スポーツ文化)	105. 学校の体育館は現状で満杯で、新しい活動が入る余地はない。 106. スポーツ推進委員の指導力が向上するような後押しを望む(全校区への配置、相談機会の充実)。

ク．計画（修正案）に関する意見

施策 7（学校運営）	107. 学校に関する評価体制は再検討することが必要。
施策 12（生涯学習）	108. 生涯学習講座などに通えない市民に配慮した取り組みも必要。
施策 13（スポーツ文化）	109. 京都サンガ FC 以外の団体にも配慮した表記が必要。
目標値・指標値について	110. 市民にわかりやすい表記や補足説明が必要。（市の回答：表記や補足説明の加筆修正を行う） 111. 目標値・指標値の設定にあたっては多角的・重層的な視点とバランスの考慮が必要（妥当性／信頼性、プロセス（実施目標）／アウトカム（成果目標）、客観的事実／意識、プラス（充実）／マイナス（課題改善）、数値／質的評価）。PDCA を適切に行うため、教育委員会内部でこれらを整理しておくことを期待する。
情報モラルに関する取り組み	112. 子どもの情報モラルに関する取り組みの充実が必要。計画には学校と家庭双方の取り組みを記載していることから、着実に実施することを期待する。
第 4 章 計画の推進	113. 学校教育と社会教育のつながりを強化するためには体制強化も必要である。教育委員会だけではなく、幅広い検討ができる場の設置を期待する。

【論点】個別分野について（学校教育、家庭教育、青少年健全育成、生涯学習）

ア．幼児教育

- 114. 幼稚園保護者にとって、小学校就学にあたっては不安の方が大きいと思う。
- 115. 小中一貫に加えて、教育の始まりである幼児教育にも注目すること、幼小連携も大事である。
- 116. 他町では幼保一元など、小学校入学準備をしている取組もある。

イ．家庭教育（家庭支援）

- 117. 指導の必要な生徒は、家庭に課題のあるケースも多い。
- 118. 集団登校ができない児童、挨拶のできない児童がいる。家庭でのしつけなどに問題があることも考えられる。
- 119. 本当に支援が必要な家庭（親）になかなか支援が届かないのが実情であろう。
- 120. 問題を抱えている子どもも、本当は良い子だと思う。結局、問題の根源は「親」（の考え方）に行き着く。
- 121. PTA 活動等において、保護者に手伝いを依頼すると「強制なの？」と聞かれることもあり、同じ親として意識の違いを感じることもある。
- 122. 保護者には小中一貫教育の理解が浸透していないことが多い。家庭への情報提供が必要。
- 123. 学校にあまり関わらない保護者が子育てに悩むケースも多い。そうした家庭に対して学校が

らの働きかけが必要だが、教員の時間確保が難しいなど、小中一貫教育の目指す理想の実現までには現実的な課題も多い。

ウ．学校教育

（学校教育全体について）

124. 学校教育は、学校と市の教育行政が一体となって取り組むべきものであり、市の考え方が重要になる。
125. 小学校においては、タテのつながり（幼稚園、中学、高校）、ヨコのつながり（家庭、地域）の双方の充実が必要である。学校では若い教員が増え、教員自身が教育や指導で悩んでいる。家庭でも保護者が子育ての悩みを抱えている。これらをタテとヨコのつながりで解決していく必要がある。
126. 黄檗学園への期待は大きい。
127. 地域は学校を応援する意向を持っている。
128. 近年、スポーツは多様化しており、部活動にはないスポーツも盛んである。（例えば、市内の中学校、高校には水泳部はない。）学校スポーツの活性化も必要と思う。体育協会としても協力する。
129. 教育委員会が保育所も管轄し、保幼小中一貫を行う市もある。時系列でタテ軸をつなぎ、地域・家庭でヨコ軸をつなぐような取組を考える。

（教職員について）

130. 小学校 PTA で多く指摘されていることは、新卒の教員に対し、指導全般、児童への目配り、クラスによる授業の進捗に差が出ることなどへの不安である。
131. 高校受験を控える中学校では、学力向上（定着）が最大の命題である。しかし、学校では教員の入れ替わりが多いこともあり、若い教員は学習指導と同時に生徒指導においても悩みを抱えている。生徒指導の改善が学習指導の改善につながり、学力向上にもつながると考えられる。
132. 学校教員は多忙である。大学等と連携し、教員をフォローする取り組みが望まれる。
133. 小学校では研修会出席などで先生の出張がとても多く、午前と午後では先生が変わるケースがある。こうなると子どもが授業に集中できない気もする。教員の研修の必要性は理解するが、もっと子どもを見て欲しいし、学校全体で配慮することも考えて欲しい。

（学生ボランティアについて）

134. （市）現在も府の制度で学生ボランティアを実施しているほか、各学校で大学生などによる授業支援を実施している。
135. インターン制度ボランティア学生をもっと活用すると良い。少し年上の存在に子どもはとても喜ぶし、子どもの目標になる。
136. インターン制度ボランティア学生は学校としても有効である反面、学生が教員志望でない場合は活動内容にも限界がある。

エ．青少年健全育成

137. 市内には地域差がある。青少年健全育成活動において、ヨコのつながりを強める取り組みが必要になる。
138. 生涯学習と学校教育のはざまに青少年教育があり、計画でしっかりと位置づける必要がある。

オ．生涯学習、スポーツ

（現時点では特になし）

【論点】アンケートについて

ア．原案（2/14 第1回委員会資料）について

139. 設問レベルが理念から現場の個々の取り組みまで多岐にわたっている。それぞれの結果を計画に的確に反映して欲しい。
140. 児童保護者の悩みを聞きたい。親の声をできるだけ聞きだせると良い。保護者の意見を出来る限り吸い上げることが望まれる。
141. 生徒の家庭では、学校からどのような家庭支援を望むかを聞きたい。
142. 幼稚園保護者が小学校への期待を答えることは難しい。親は不安の方が大きい。
143. 理念、ビジョンに通じる共通の設問があつて良い。アンケート結果は公開が望ましい。
144. 現在の問題についての設問のほかに、経年的な意向の変化を把握する設問があつても良い。
145. 学社連携を進めるための設問が望まれる。
146. 黄檗学園への期待は大きいので、学園長の意見も聞きたい。
147. 市民アンケート対象者に町内会長を入れてはどうか。対象者が他のアンケートと重複しない方が望ましい。
148. （市）過去の調査結果も活用する。回収率は、過去の調査や他市の例から考えると30%程度と見込む。対象者の抽出に住民基本台帳を用いるため、住基データにない項目（町内会長を入れる、各対象者を重複させない）での抽出はできない。

イ．調査に関する意見

149. 必要な場合は、議論の途中でアンケートを実施することも視野に入れたい。
150. 調査項目にないが、ネットによる人権侵害、性同一性障害などの意見を聞いてもよかった。

【論点】市独自の取り組みについて 意見は「論点 のイ」に移行した。

以上